

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-129074

⑪ Int.Cl.⁴

A 63 H 3/04
3/46
17/00

識別記号

庁内整理番号

A-7339-2C
7339-2C
C-6935-2C

⑬ 公開 昭和62年(1987)6月11日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全6頁)

⑭ 発明の名称 乗物人形玩具

⑮ 特 願 昭60-270551

⑯ 出 願 昭60(1985)11月30日

⑰ 発 明 者 横 山 敬 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号 株式会社タカラ内

⑱ 出 願 人 株式会社 タカラ 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号

⑲ 代 理 人 弁理士 瀬川 幹夫

明 細 書

1. 発明の名称

乗物人形玩具

2. 特許請求の範囲

玩具本体の外面に消防士、船長、パイロット等の乗物と関係のある職業に応じた服装を表示するとともに、以下の要件を備えることを特徴とする乗物人形玩具。

(イ) 胴体部と脚部とは玩具本体が表す職業と関連のある乗物ボディを構成する一体のブロック体に変形可能に連結されていること。

(ロ) 腕部は胴体部の前後又は上部に移動可能に連結されていること。

(ハ) 頭部は乗物ボディの操縦席位置に移動可能に形成されていること。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明消防士、船長、パイロット等のように乗物と関連のある職業を表わすとともに、その職業に関連する形態に変化する乗物人形玩具に

関する。

(従来技術)

最近、走行玩具や飛行機玩具等異なる形態に変化するロボット玩具が提案実施されている。これは形態が全く変化してしまうところにその面白さがあるが、これに対して形態がある関連をもって変化する人形玩具の出現も要請されている。

(発明の目的)

本発明は上記事情に鑑みて成立したものであって、特に消防士、工事作業員、医者、船長、パイロット等を表すとともに、それぞれの職業に応じて関連のある消防車、土木作業車、救急車、船、飛行機等の乗物ボディの操縦者に変化することができる乗物人形玩具を提供することをその目的とする。

(目的を達成するための手段)

上記目的を達成するため、本発明に係る乗物人形玩具は、玩具本体の外面に消防士、船長、パイロット等の乗物と関係のある職業に応じた

服装を表示するとともに、以下の要件を備えることを特徴とする。

(イ) 胴体部と脚部とは玩具本体が表す職業と関連のある乗物の主要部を構成する一体のブロック体に変形可能に連結されていること。

(ロ) 腕部は胴体部の前後又は上部に移動可能に連結されていること。

(ハ) 頭部は乗物ボディの操縦席位置に移動可能に形成されていること。

(発明の作用、効果)

上述のように、本発明によれば、玩具本体はその外面に消防士、船長、パイロット等の乗物と関係のある職業に応じた服装が表示された人形の形態を呈しているが、胴体部と脚部とを玩具本体が表す職業と関連のある乗物の主要部を構成する一体のブロック体に変形させ、腕部を上記乗物の特徴に応じて移動させ、頭部を上記乗物の操縦席位置に移動させることにより、全体として乗物とその操縦者に形態を変化させることができ、従来の乗物玩具あるいは人形玩具

とは異なる形態変化をさせることができ、遊びの領域も拡大することができる。

(実施例)

以下、図面により本発明の実施例につき説明する。

図において、符号Aは本発明に係る乗物人形玩具を示す。この乗物人形玩具Aは一体のブロック状に形成された脚部1と、両側に分離可能に形成された胴体部2と、胴体部2の前部に回動可能に形成された腕部3と、脚部1の前面まで移動可能に形成された頭部4とから構成され、外面には消防士の服装模様が施され、全面は赤色に塗られている。

脚部1の後部には車輪5が側部に回動自在に設けられ、前部中央にはスリット6が形成されている。また下面には消防車の前面模様が施されている。

胴体部2の後部にも車輪5が側部に回動自在に設けられている。また、胴体部2は第2図及び第3図に示すように、左右に二つ割り形成さ

れ、分割各部2aが脚部1に対して左右に摺動して分離可能に形成されているとともに、脚部1の基部1aに上下方向に摺動可能に設けられている。なお、このような摺動機構は、例えば脚部1の基部1aに胴体部2の下部を摺動可能に嵌合するとともに、分割部2aと脚部1の基部1aにおいて、一方に図示しない所定の長さの摺動溝を、他方に上記摺動溝に係合する係合部を設け、該係合部を摺動溝の範囲内で摺動させる構成とすればよい。通常の場合、第2図の矢印方向に胴体部2を摺動させて胴体部2と脚部1とを接近させたときに係合部が摺動溝に係合されるように構成するのが好ましい。

また、胴体部2の両側から前部に横方向に案内溝7が形成され、腕部3の基部1aは上記案内溝7に沿って移動可能に形成された連結軸8に回動可能に連結されている。このため、腕部3は胴体部2の前部及び側部に移動可能である。

頭部4は脚部1の基部1aにヒンジ部8に

よって回動自在に支持された連結杆9を介して連結されているとともに、該連結杆9の他方の端部に連結杆9を中心に回転自在に形成されている。これにより、胴体部2を第3図のように左右に分離してその間から連結杆9を脚部1のスリット6に係合するように倒して頭部4を脚部1の前部に移動することができる。

上記乗物人形玩具Aは上述のように構成されているから、第4図に示すように、上記玩具をおお向けに倒した後、腕部3を胴体部2の前部に移動させ、さらに胴体部2を脚部1に接近させて一体のブロック状とし、その後胴体部2を左右に分離し、その間から連結杆9を回動させ、第5図のように頭部4を脚部1の上に移動させ、再び分離した胴体部2を接合する。これによって脚部1と胴体部2とはいずれも赤く、脚部1は操縦席を含む車前部として、胴体部2と腕部3とは荷台部を含む車後部として消防車のボディを構成するブロック体に形成される。そして、頭部4は操縦席上に配置されるので、

乗物人形玩具Aは全体として人形が消防車を操縦しているような形態となる。

なお、自動車ボディへの変化は上述の例に限定されない。例えば、第6図(a)(b)に示すように、胴体部2と脚部1とを接近して一体ブロック状にするとともに頭部4を胴体部2の前部に移動し、腕部3を胴体部2の上部(頭部4があった位置)に移動させることにより、前述とは別の自動車形態を得ることができる。また、第7図(a)(b)に示すように、腕部3にドーザレーキ部材10等を連結させれば、特殊車両の形態に変化させることができる。ちなみに、第6図(a)(b)の例はタクシー運転手とタクシー、第7図(a)(b)の例は土木作業員とブルドーザの例である。しかし、これらの例のほか、例えば医者と救急車等いろいろなものに適用することができる。

次に、胴体部2と脚部1との結合ブロック体は飛行機や船等の形態としても変化させることができる。

且つ胸部12は嵌合溝11の対向壁に回動自在に軸支されている。また胸部12にはスリット15が形成され、頭部4は第1図の例と同じように上記スリット15内を回動する連結杆(図示せず)の端部に支持されている。さらに、脚部1の両外側面には回動片16が回動自在に装着されている。したがって、人形玩具Aをうつぶせにし、脚部1と胴体部2とを縮めて一体ブロック状にし、回動片16を回動させて胴体部2と接続させる。胸部12を回動させて胴体部2の前方に出し、背中側に移動して背中側に回した腕部3の上に載せる。これによって全体は船と船を操縦する船長の形態に変化する。

上述のように、人形玩具Aは胴体部2と脚部1とを一体ブロック状に形成可能としているので、外表面にその乗物特有の色、模様等を施すことにより、乗物らしさを出すことができ、腕部3等はその乗物に特徴的なアクセントとして利用すればよい。これにより、人形を全体として乗物とその操縦者に形態を変化させることが

第8図(a)(b)は飛行機の例であり、パイロット人形玩具Aの胴体部2には嵌合溝11が形成され、該嵌合溝11内には胸部12が嵌合され、且つ胸部12は嵌合溝11の対向壁に回動自在に軸支され、その後部には機首部14が形成されている。また胸部12には頭部4が水平方向に回動自在に装着されている。胴体部2と脚部1の後部両外側には翼部材13が折畳み可能に形成されている。腕部3は背中側に移動可能に設けられている。したがって、前述の例と同じように、人形玩具Aをあお向けに倒し、脚部1と胴体部2とを縮めて一体ブロック状にし、胸部12を回動させて機首部14を胴体部2の前方に出し、腹側に移動した頭部4を回転させるとともに、腕部3を下方に(背中側)に回し、翼部材13を横に開く。これによって全体が飛行機とその操縦士に形態変化する。

第9図(a)(b)は船の例であり、船長形状の人形玩具Aの胴体部2には嵌合溝11が形成され、該嵌合溝11内には胸部12が嵌合され、

でき、従来の乗物玩具あるいは人形玩具Aとは異なる形態変化をさせることができるので、遊びの領域も拡大することができる。

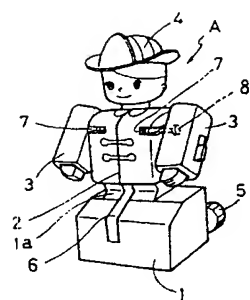
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係る乗物人形玩具の斜視図、第2図は上記乗物人形玩具を背中側から見た斜視図、第3図は胴体部の分離状態と頭部の連結態様を示す説明図、第4図は形態変化の途中を示す斜視図、第5図は形態変化後の斜視図、第6図(a)(b)、第7図(a)(b)及び第8図(a)(b)はそれぞれ乗物人形玩具の他の例の変化の前後の状態を示す斜視図である。

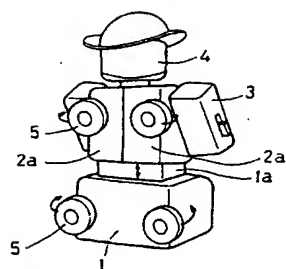
符号A…乗物人形玩具、1…脚部、2…胴体部、3…腕部、4…頭部

特許出願人 株式会社タカラ
代理人 弁理士 瀬川 幹 夫

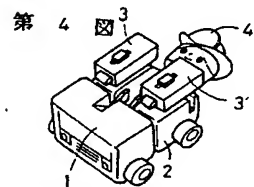
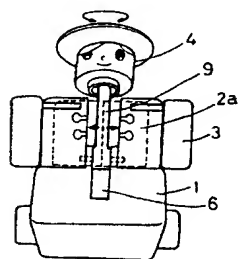
第 1 図



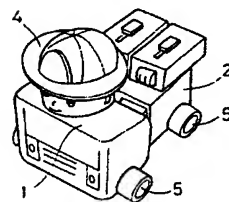
第 2 図



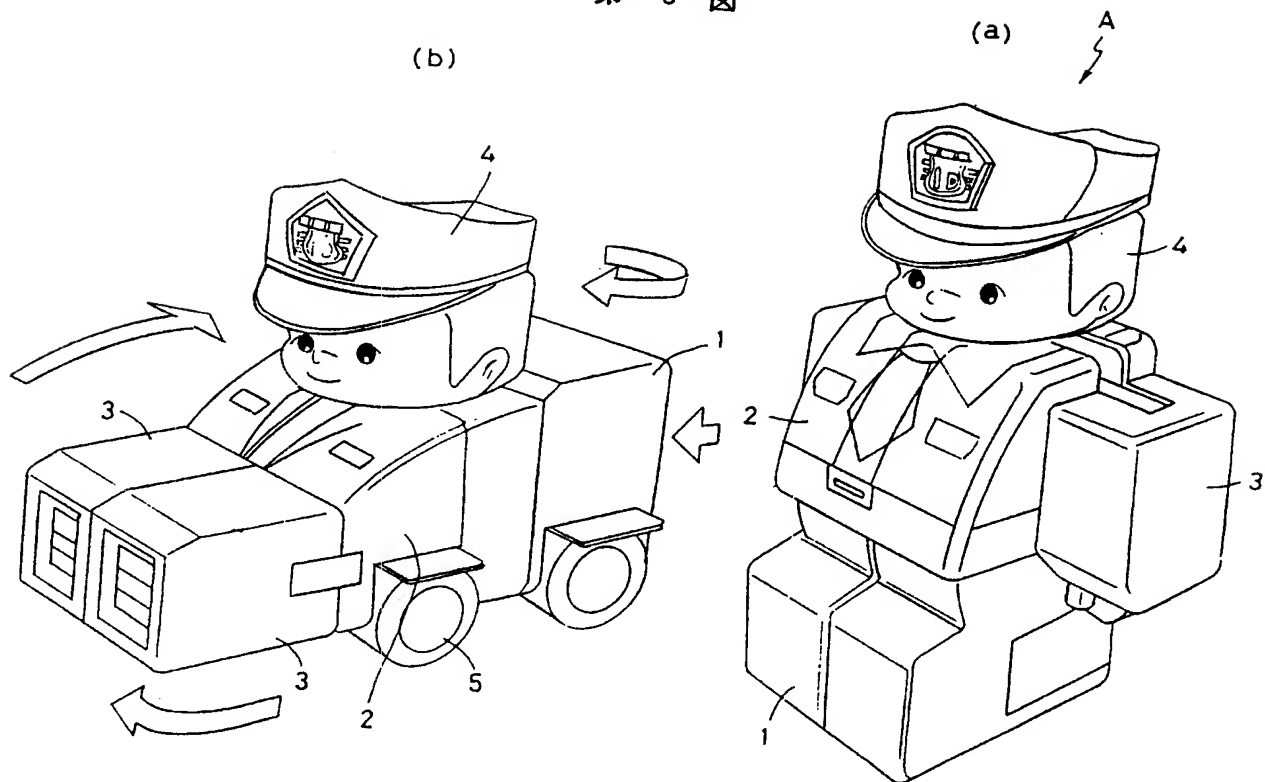
第 3 図



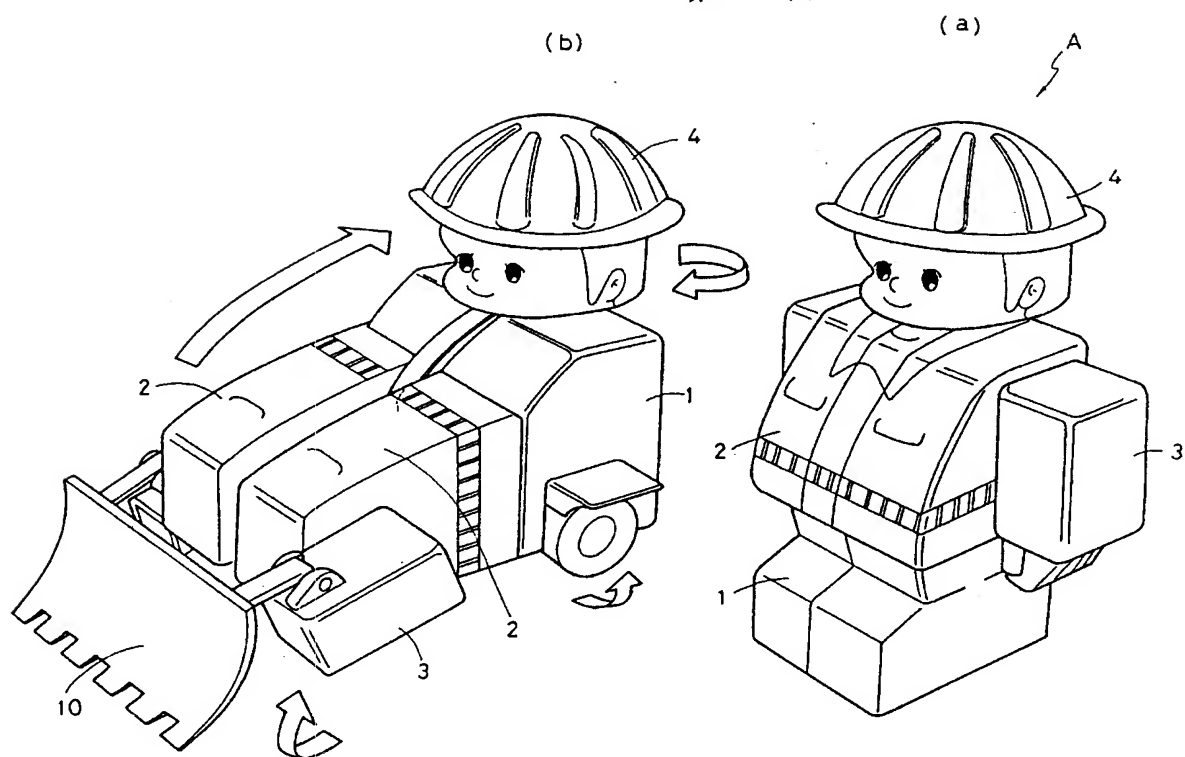
第 5 図



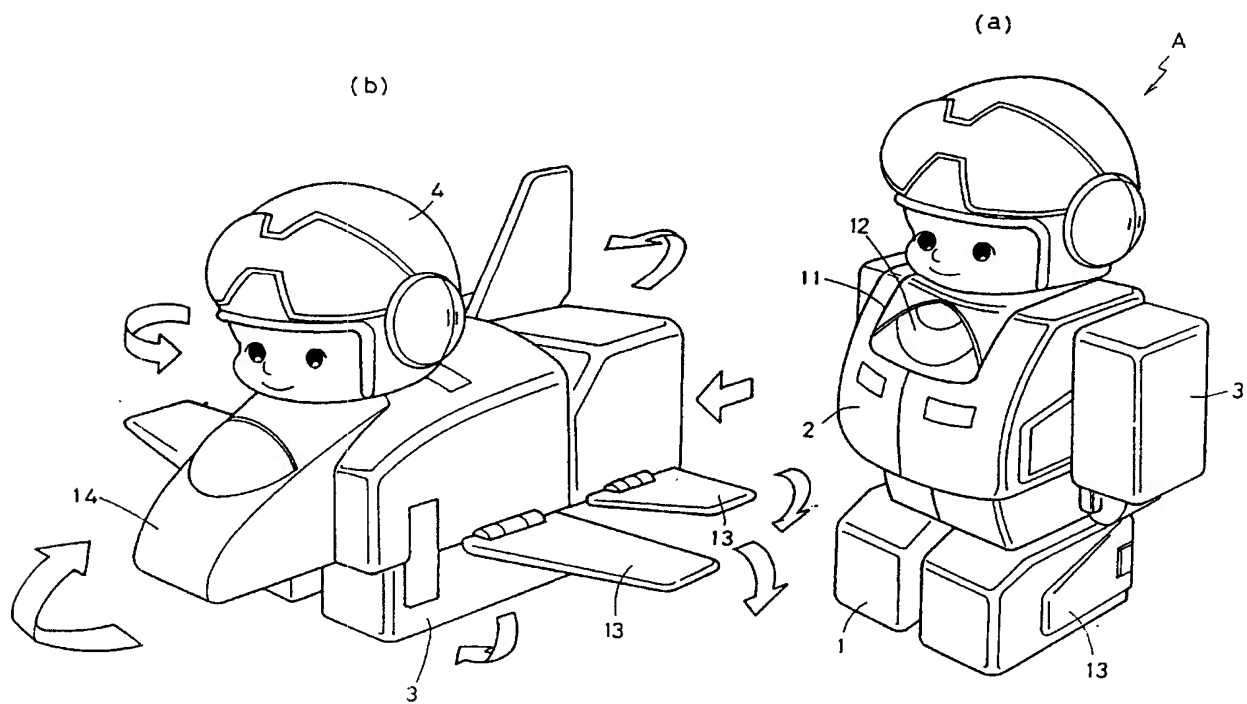
第 6 図



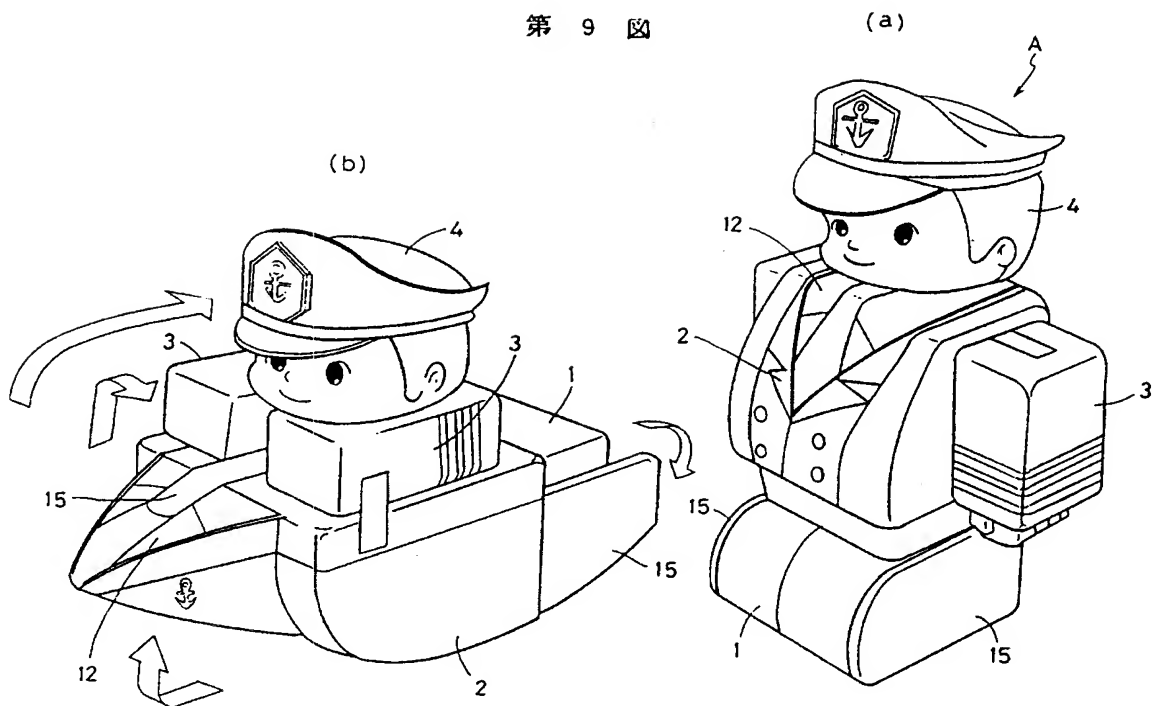
第 7 図



第 8 図



第 9 図



手続補正書（方式）

昭和61年 3月 6日

特許庁長官 宇賀道郎 殿

1. 事件の表示

昭和60年特許願第270551号

2. 発明の名称

乗物人形玩具

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号

名 称 株式会社 タカラ

代表者 佐藤 安太

4. 代理人

住 所 東京都中央区新富1丁目18番4号

古川ビル2F ☎03(553)9058

氏 名 (7491) 弁理士 瀬川 幹夫

5. 補正命令の日付 昭和61年 2月26日

6. 補正の対象

「代理権を証明する書面」及び「図面の簡単な説明」の欄

7. 補正の内容

(1) 「代理権を証明する書面」を別紙の通り補正する。

(2) 明細書第10頁第10行～第12行目の「第7図～である。」を削除し、次のように訂正する。

「第7図(a)、(b)、第8図(a)、(b)及び第9図(a)、(b)はそれぞれ乗物人形玩具の他の例の変化の前後の状態を示す斜視図である。」

61.3.6